

新潟支援報告書

所属名	危機管理室	報告者	小林 勇介(55歳) 中野 靖(45歳)
派遣期間	平成16年11月20日(土)～平成16年11月21日(日)		
派遣先	市町名	小千谷市、川口町	
	場所・部署等	いずれも災害対策本部	
支援活動 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・小千谷市及び川口町双方の現状・課題を伺ったうえで、神戸市から新たな支援体制のあり方を提示。今後は、電話、FAX、e-メールを活用した中長期的支援を御提案し、了承をいただいた。 (双方でキーマンを決め、特に必要ならばその都度、神戸市から人を派遣する。今後はより総合的な視点でのアドバイスが有用と考えられるため) ・今後、より効果的な災害復旧・復興をすすめるためにも、周辺市町と協力して連絡会を開催し、新潟県との調整・意見要望を出していくべきとの助言も行った。 		
課題を含めた感想等	<p>各市町の現状・課題</p> <p>(1) 小千谷市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月半ばには雪が降り始め、年末～1月には根雪になるが、今後は降雪までに行うべき事業(り災証明発行、仮設住宅建設・入居事務など)及び積雪・融雪事業(冬の道路除雪など)の両方の課題がある。 ・り災証明の受付・発行を21日(日)から開始するとともに、現在、仮設住宅を建設中(市民グラウンドなど) ・ライフラインの復旧はかなりめどがついてきた。 (下水道100%、水道は特に被害のひどい東山地区を除いてほぼ進捗。ただ、ガスは70%程度) ・ゴミは仮置き場を造成中で、焼却を柏崎市などをお願いしているとのこと(倒壊家屋の搬入予定は12月上旬) <p>(2) 川口町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインはここ2～3日でかなり復旧。 (11/19(金)段階で下水道は90%、水道は75%。ただし、ガスは5%程度) ・避難勧告は既に解除したため、避難者数も減少しつつある。 <li style="padding-left: 20px;">人口 約5,600人(約1,600世帯) <li style="padding-left: 40px;">うち避難者数 16日(火) 約4,000人(71%) <li style="padding-left: 40px;">17日(水) 約2,900人(51%) <li style="padding-left: 40px;">18日(木) 約1,900人(34%) ・り災証明の受付・発行開始を20日(土)から開始。20日(土)の時点では特に混乱はなかった。ただ、今後、生活再建支援金、災害援護資金貸付や応急修理もはじまるため、町民から再調査の要望が出てくるかもしれないとのこと。 		

(折しも、21日(日)に新潟県がり災程度に対応する義援金額を発表

全壊-200万、大規模半壊-100万、半壊-25万、一部損壊-5万)

・仮設住宅は12月上旬に完成予定(412戸)

(町民からのつよい要望により、小・中学校のグラウンドなどに建設)

・仮設住宅入居希望者は当初の仮希望よりも減少(小千谷、川口ともに)

小千谷市 仮申し込み数 1,300戸程度 申し込み数 770戸程度 へ

川口町 仮申し込み数 398戸 申し込み数 352戸 へ

・川口町においては、新潟県派遣職員が1~2週間交代で現地入りし、現地ニーズを汲み上げながら精力的に調整を行っており、有用な働きをこなしていると思われた。

り災証明発行、仮設住宅建設など当面の復旧施策については、両市町とも、かなり進捗しつつあった。今後も降雪がはじまる迄に引き続き着実な復旧作業が望まれる。そのために、神戸市としても引き続き、総合的な中長期支援を提案したところである。また、被災市町同士による一層の連携が望まれるところである。